

令和元年6月11日（火）第1回生徒指導専門部会研修会

書記・司会

静清高校教諭 木村 亮

1. 部会長挨拶（静清高校 酒澤政明先生）

2. 令和元年度専門委員挨拶

阿形達徳（静岡雙葉） 太田圭佑（オイスカ） 水口 透（日大三島）

飯島 敦（菊川南陵） 小塚直哉（飛 龍） 藤原 剛（浜松開誠館）

3. グループワーク

〈テーマ〉 各校の特色ある生徒指導および学校現場におけるクレーム対応と現状

●各班発表●

【1班】

- ・全ての生徒指導において指導カードを導入し、基準を明確化している。段階を踏んで処分を行う。
- ・指導カードが生徒とのコミュニケーションツールとして活用され、いい方向に浸透している。
- ・昔と比べ、生徒の層が変化しており、一律化せず今の生徒の現状を見極めて指導を行う。
- ・クレーム対応は、担任→学年主任→課長・部長→管理職と段階を踏むか、担当教諭に一本化。

【2班】

- ・生徒の気持ちの切り替えに重点を置く。ノーチャイムによりセルフコントロールを促す。
- ・授業の開始と終了時に15秒の黙想を行い、気持ちを落ち着かせることを徹底する。
- ・学校ごとに研修会を開催し、教員自身の研鑽を計る。

【3班】

- ・登校指導に重点を置く学校が多い。朝の職員朝礼の回数を減らし、朝に全教員で行う学校もある。
- ・継続し粘り強く指導を行うことで意識が徐々に変わっていく。
- ・登校指導を重点的に行った結果、周辺住民からのクレーム等も減り、学校の指導が好印象になった。
- ・クレーム対応において、今の時代は、保護者が我々教員の声を録音していることを念頭に置き、慎重に言葉を選びながら対応するようにする。
- ・保護者との理解の相違がないように、どんなに小さなことでも指導の記録を残し職員で共有する。
- ・名乗ってくださるクレームを大事にする。事後指導の報告を行う。
- ・登下校のクレーム際、“場所”を言ってくださった場合は、数日間は教員を配置し、指導にあたる。

【4班】

- ・保護者に対する誠実な対応を心がけ、連絡を取る。保護者のニーズに敏感になる。
- ・いじめ防止対策推進法を尊重しつつ、ケースバイケースで慎重に対応しなければならない。
- ・登下校中に、住民の方から注意を受けても何も言わず無視してその場を立ち去る生徒が多い。きちんと謝罪や挨拶を出来るような生徒を育てていかなければならない。

【5班】

- ・月1回交通安全の日を設定し、交通指導を全教員で実施している。その結果、地域住民の自転車マナーに

関するクレームの質が変わってきている。

- ・友人関係のトラブルを早い段階で解消することで、SNSの問題を未然に防ぐことができる。
- ・保護者の対応により生徒指導が変わる場合があるので、生徒課の共通認識で対応したい。
- ・精神的な問題で不登校の生徒が増えているので、生徒課だけでなく学年や養護教諭等も含め、学校全体で協力して対応している。
- ・生徒指導のスキルアップのために、生徒指導の事例や指導内容・方法を共有する研修会を開催している。
- ・生徒課以外の教員にアンケートを実施し、生徒指導に生かしている。

【6班】

- ・生徒に学校のプライドを持たせる指導を行う（ルールの徹底）。
- ・ルールが守られない場合、放課後にペナルティの実施。
- ・毎月、朝礼にて風紀委員が目標を発表し、クラスで実行している。
- ・学期末にマナーアップチェックを行う。
- ・SNSトラブル防止のために、業者に依頼して講演会を行っている。
- ・自転車のマナーが悪く、イエローカードがたまった場合、自転車の使用禁止にさせる。
- ・授業の規律を確保するために、定期的に生徒課の教員が授業を巡回する。
- ・クレームは即対応し、確認し指導を適切に行う。
- ・公共交通機関使用に関するマナーを必ず説明する。

3. 講評

私学の一番大事なものは生徒指導である。しかし、生徒指導は警察ではない。柔軟性を持って対応しなければならない。最近の生徒指導事案では、決めつけにより処分を行ってしまうことがあるが、それではクレームに繋がり、保護者との信頼関係を損なう可能性がある。しっかりと裏を取り確実な調査を行った後、処分を行わなければならない。だが、生徒は過ちを犯す。いかに柔軟性を持った対応をし、生徒の今後に繋げていくのが重要である。一方、私学はより魅力のある学校を作らなければならない。そのためには、生徒指導と同時に教員を徹底的に指導する必要がある。挨拶は基本中の基本である。全職員に対して、もう一度コミュニケーションの取り方から確認していくことが大事である。それが生徒課長(部長)の役割であり、全体をまとめいい方向に向くように動いて欲しいと考えている。また生徒に対しては、厳しい中にも優しさがあるような対応を常日頃心掛け、うまく駆け引きを行い、最後は味方になってあげられるようにしてほしい。学校全体で、1人1人の生徒を育てていきましょう。

以上